

安来市地域公共交通計画【概要版】

令和4年3月 安来市地域公共交通活性化協議会

基本 理念

公共交通を育み、未来に残すことで
いきいきと安心して暮らせるまちをつくる

計画期間:令和4年度～令和8年度の5年間

1. 計画の趣旨

安来市の公共交通は、主にイエローバスやJR山陰本線、タクシーや住民主体による地域内輸送等の交通で構成されており、車を運転できない高齢者や児童・生徒を中心に、地域住民の生活を支える移動手段として生活の足を担っています。

これまでもイエローバスを中心に様々な施策を実施してきた一方で、人口減少や少子高齢化がより一層進み、社会環境は大きく変化しています。また近年は、公共交通利用者の減少や公的負担額の高止まりに歯止めがかからず、公共交通の担い手（運転者）不足の深刻化、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公共交通への影響等が懸念されています。

このことから、社会環境の変化に対応し、市内の公共交通を持続的に維持・確保し、未来に残していくための目標や事業を示した、市の新たな公共交通マスタープランとなる「地域公共交通計画」を策定することとなりました。

2. 安来市公共交通の課題

現況の整理・分析や市民アンケート調査結果、関係者へのヒアリング調査結果等より、安来市の抱える公共交通の課題を次の8つに整理しました。これらの課題や公共交通の役割を踏まえて、基本的な目標や取り組む事業を設定しました。

課題1

人口減少の進行と事業費の高止まりに対する対策

課題2

非効率な運行をしている路線の見直しと適切な路線の運用

課題3

住民のニーズに合わせた公共交通網の整備

課題4

公共交通を利用しにくい環境にある集落への対応

課題5

タクシーや住民主体の移動手段を含めた交通ネットワークの構築

課題6

わかりやすい公共交通の情報発信

課題7

公共交通を住民全体で維持していく意識醸成

課題8

観光や福祉、教育等の他分野との連携

3. 計画の基本目標と事業内容

基本目標

1

持続可能な公共交通の運用と 公共交通の維持・確保

《対応する課題：課題1、課題2、課題5》

事業①：適正な運用を推進するための定期的な評価検証

- 安来市地域公共交通活性化協議会を定期的に行き、事業の実施状況や計画目標の達成状況を報告・協議します。また、社会情勢や環境の変化を踏まえた評価指標の見直し、イエローバス路線の見直しや計画に掲げる事業の実施状況についても必要に応じて報告・協議します。
- イエローバスの乗降客数を把握するための乗降カウンターを継続してバス車両に設置し、今後見直し対象となる路線については計測した乗降者数を検討材料として活用します。

事業②：イエローバス路線の見直し

- JR山陰本線との役割分担を明確化し、JR山陰本線のダイヤ改正に合わせた調整を継続します。
- 観光ループと広瀬＝米子線の広瀬～安来区間を統合した新たな「広瀬＝安来線」の設定と、広瀬＝米子線の安来駅～米子駅区間を切り離した「安来＝米子線」の設定を検討し、重複区間解消とわかりやすさ向上、運行の効率化を図ります。
- 令和6年度末の切川バイパス整備にあわせて、買い物バス・市街地循環バスの新たな運行ルートを検討します。
- 利用が少ない路線については、運行ルートの集約化と他の交通手段（地域内交通）への転換を検討します。

基本目標

2

地域生活を支える 公共交通ネットワークの構築

《対応する課題：課題2、課題3、課題4、課題5、課題6、課題8》

事業③：地域の交通資源を活用した生活交通の確保

- バスによる運行が非効率な地域や、バスによる輸送が住民のニーズに合致しない地域においては、乗合タクシーや地域住民が運用する移動手段等、様々な選択肢を踏まえて最適な地域内交通を検討します。
- 現在の地域内交通（交通空白地有償運送）についても、継続して運行を支援していきます。



▲ 比田地区デマンド交通
(東比田地区・エーひだ号)

事業④：公共交通の利用しやすさ・安心の向上

- 通学時間帯や鉄道との接続に配慮してバスのダイヤ調整を行います。
- 時刻表を適宜更新するとともに、今後のイエローバス路線の大幅な見直しを見据えてわかりやすい情報発信を検討します。
- 利用の状況に応じて、イエローバスの待合環境を整備します。

事業⑤：タクシー事業継続への支援と新たなサービス創造

- イエローバスの代替交通等を含むタクシーを活用した新たなサービス展開にあたって、市内タクシー事業所を対象とした普通第二種免許の取得に要する費用等の支援について検討します。
- タクシーが地域に存続し続けるために、タクシー事業の収益拡大に寄与する取組を検討します。

基本目標

3

人々のつながりと活力のキッカケとなる 公共交通とその環境の育成

《対応する課題：課題5、課題6、課題7、課題8》

事業⑥：利用促進策の継続実施

- 実施が可能な利用促進策について検討を進めるとともに、交通部門だけではなく他部門との連携等による取組の実施を検討します。
- 高齢者を対象とした説明会、小学校等でのバス利用教室等、地域住民の要望や地域の状況等に応じて開催を検討します。
- 利用促進の観点から運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施します。

事業⑦：他部門や地域活動との連携検討

- 市街地活性化や観光振興に係る交通について定期的なニーズ把握と必要に応じた見直しを行います。
- イエローバス路線の見直しや新たな地域内交通の導入等にあわせて、地域への説明会や意見交換会を開催します。
- 交通手段の導入や運行支援だけでなく、交通をきっかけとして始まった地域活動やプロジェクトに対しての支援等を検討します。

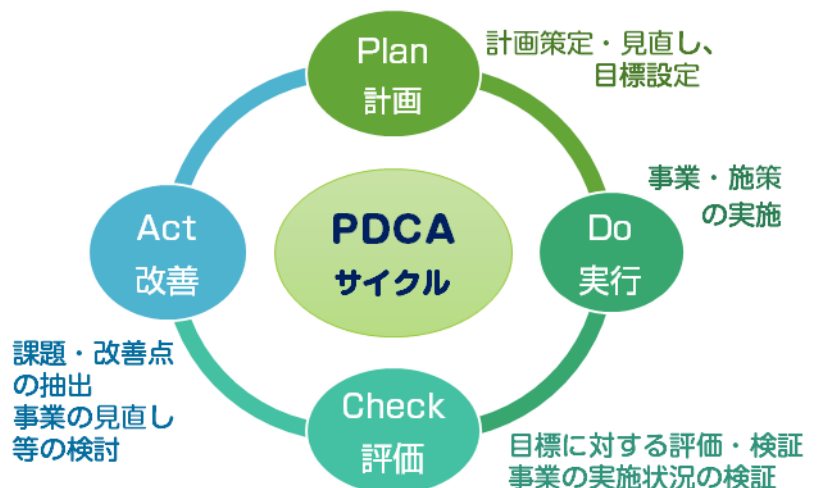
4. 評価指標とモニタリング項目

対応する基本目標	評価指標	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
持続可能な公共交通の運用と公共交通の維持・確保	公共交通の維持・確保に係る市民1人あたりの公的資金投入額	7,747円	7,800円
	公共交通に係る年間の事業費	295,550千円	274,000千円
地域生活を支える公共交通ネットワークの構築	地域内交通の実施地区	3地区	4地区
	市内公共交通（イエローバス及び住民主体の移動手段、バスに代わる移動手段）の年間利用者数	257,348人	294千人
	市内タクシー事業所の乗務員数	24人 (令和3年度)	20人以上
人々のつながりと活力のキッカケとなる公共交通とその環境の育成	公共交通に関する住民アンケートにて、地域の公共交通を残していくため「少しでも利用しようと思う」と回答した人の割合	69.6% (令和3年度)	75%以上
	市街地交通路線や観光地まで運行している路線（通学には利用されていない路線）の1便あたり利用者数	買い物バス：3.14人/便 市街地循環バス：3.20人/便 アルテピア線：0.67人/便 観光ループ：7.40人/便	基本値を3.0人/便以上とし今後の見直し等にあわせて適切な値を設定

5. モニタリング方法

計画の進捗管理は「安来市地域公共交通活性化協議会」が行い、毎年度改善を図りながら継続していくことで、計画を推進します。

また、目標の達成状況及び事業の実施状況の評価は、毎年1月～3月頃に開催する安来市地域公共交通活性化協議会にて毎年度報告します。



▲ PDCAサイクルの推進イメージ